



谷口晴俊さんと谷口夏季さん



● DATA  
 メガネのタニグチ  
 住所：伊豆の国市田京 144-1  
 TEL & FAX：0558-76-07873  
 営業時間：9：00～18：00  
 定休日：日祝祭日  
 HP：www.megane-taniguchi.com/  
 取扱ブランド  
 CHROME HEARTS、EFFECTOR、ANNE ET VALENTIN、Line  
 Art CHARMANT、KOOKI、GMS.、MASTERPIECE など



時としてはまだ先観的でもあったアメリカ西海岸を代表するブランドを導入するなど、アイウェアという意識が早くから根付いていたショップでもあった。そして現在といえば、その審美眼や感性は夏季さんが店を手伝うようになってさらに磨きがかかっているようで、シルバークセサリーの高級ジュエリーブラ

ンド、クロムハーツや、ロックテイストあふれるエフェクター、力強いラインと地中海の情熱的なカラーが魅力のアンパレントインなどが加わり、アイウェアの楽しみを広げている。その一方で定番や求めやすいセット商品なども揃えるなど、全方位的なラインナップで、思い思いの装いに応える。「よくにブランド自体を意識したことではなく、デザインとカラーで気に入ったコレクションをセレクトしています。強いて言えば、流行に左右されずブランドそのものが持つ「らしさ」を大切にしています」と夏季さん。メガネの不变的なテーマである、良く見えて疲れないというビジョンケアと、装うアイウェアの両立がこれからも脈々と受け継がれていくことだろう。

この町のオススメショップ

さん。医療現場での経験とメガネ調整における屈折検査という両面からのアプローチが得られるのは、実に頼もしい存在である。また同店を象徴する手作りメガネは、市販のフレームに対応できない子ども達に向けて、弱視用治療目的にはじめられたもの。大きな特長になっているのは、子どもの成長に合わせてブリッジサイズの変更はもちろん、修理を含めて永久保証を実施していること。メタル素材のメ

リットを生かしたもので、ロー付修理も20分もあれば仕上がると、顧客思いが伝わってくる。また手作りメガネというだけに、既存のフレームに飽き足らない人たちに向け、オリジナリティあふれるサンプルから選ぶのも良し、いちらからデザインするも良し。これまでは素材のサンプルラチナを全面に打ち出したフレームを展開してきたが、フロントリムのインナーにセル巻きを施し

こちらが新作のハンドメイドフレームコレクション。フロントリムのインナーをセルで巻くことにより、よりスタイリッシュなデザインを展開している。



た、デザイン性をさらに高めたコレクションも今年から始まり、手作りメガネの世界観を広げている。子ども用としてはビーズをあしらったアイデアも考案するなど、キッズやジュニアたちの楽しみをアイウェアを支えている。夏季さんも高校生時代から手伝ってきたこともあって、父親譲りの腕前。自らも、もの作り大好き人間を自称するほどで、親子それぞれの工房をショップ内に構えるほどだ。趣味とはいいながら、ピアスや箸も作るなど、創作意欲はとどまることを知らない。また才女のイメージを持ちながらスノーボード、サーフィンなど横乗り系スポーツを楽しむアグレッシブな一面を持つなど魅力は尽きない。一方、前回の訪問時にも感じていたのだが、取材の主旨と異なっていたことから触れなかったものの、プロパーを飾るアイテムに目を見張ったものだった。当





店内に居ながらにして、霊峰富士山を望むことができる



上は、子ども用の手作りメガネの一例。いまでは好きなビーズを選んでお子さんも楽しみながら手作りメガネに参加できるようになっている。下はショップの奥にある夏季さんの工房。向かいには晴俊さんの工房で、親子ともども手作りメガネの制作に精を出す。夏季さんは、福井に出向き職人に教えを請うほか、将来は製造用に使われる高機能なロー付機を導入したい、という。



## 脈々と受け継がれる もの作りとビジョンケアのDNA

【メガネのタニグチ】

ポト体制が楽かれてもいる。夏季さんは大学入学時に新入生代表としてあいさつしたことから地元日刊紙の取材を受け、「家業の眼鏡店を継ぐか、医療に行くか迷っている」と率直な心境が活字にされた。

卒業後は医療機関に勤務して視能訓練士としてキャリアを積んできたが、夏季さんは物心ついた時から父親が営む眼鏡店が遊び場にもなっていたことから、門前の小僧ならぬ娘。メガネもおもちゃの1つとして親しみあるものであり、しかも高校生にもなる、遊び半分での自身のメガネフレームを手作りしたというから、ものづくりのDNAがしっかりと受け継がれてきたわけだ。

いまから7年前に地元に戻り、メガネのタニグチの新たなスタートが切られた。もの作りの楽しさと奥深さに魅せられて靴が切られたわけだが、そこは視能訓練士としてのビジョンケアに対する取り組みが根底になっていること言うまでもない。

医療機関といえども緊張した張り、主訴を上手に伝えることができなかったりする人も多しはず。「何が困っているのか、どんな視界を求めているのか。こうした第一歩がメガネづくりにおいてとても大切なことで、お客様のケアを何より心がけ、そしてお作りさせていただきます。そのメガネを掛けられて満足に笑顔が浮かべる表情を見た時が、私にとっても「一番の喜びなんです」と夏季

手作りメガネを手がけるショップは全国に少なからず存在するが、そのほとんどがプラスチックフレーム。おそらく日本で唯一、メタルフレームを手作りしているショップとなるのが、伊豆の国市にあるメガネのタニグチ。実は手作りメガネを始めて間もない今から17年程前、小誌の職人列伝で登場してもらったが、新たな息吹を吹き込みさらなる進化を遂げているとの情報を得たことから、旅情企画として再訪することになった。

店を前にすると記憶にあった外観と異なるが、きつとりリニューアルしたのだろうと店内に入れば、オーナーの谷口晴俊さんが出迎えてくれて開口一番、「01年以來ですから17年ぶりですね、すっかり年を取ってしまいました」。誰もが時計の針を逆戻りさせることはできないが、印象的な笑顔は今も健在。そのやさしき表情が若々しくもある理由が、すぐに分かることになる。

しばし当時は振り返りながら談笑を続けていると、妙齢の女性が姿を現す。長女の夏季さんで、今年から社長として店を任されることになったという。単に後継者ができたことにとどまらず、父親が始めた手作りメガネの継承者でもあるからだ。

谷口さんには2人のお子さんがいるが、長男長女とも視能訓練士でもある。長男は医療の道に進んだとはいえ、現在の勤務先は同店に隣接し関係の深い、矢田眼科医院とあって、手厚い視生活のサ